

教養教育・共通教育分科会  
第6回

教養・共通教育：  
その多様性と支える仕組み

2009年6月12日

小林信一

(筑波大学)

# ポイント

1. 教養教育・共通教育の多様性と柔軟な対応
  - 歴史的多様性
  - 現実的多様性
2. 学習重視のトレンドと学習支援
  - 学習内容の多様化
  - 学習方法・教授法の多様化
3. 教養教育・共通教育は誰が担うのか
  - 守るべき砦か、既成概念の打破か

# 問題意識-1

## 議論の範囲を広くしたら・・・

- 縦方向の接続の中での教養・共通教育
  - 高校・高専-学部(教養・共通-専門)-修士-博士
  - 修士の完成度・存在感の大きい日本
  - 大学院共通科目の動き
- 教養・共通教育と専門教育は別のものか
  - 縦方向の段階の違い？(学部を二つに分ける？)
  - 「くさび形」=別のもの、補完性
  - 専門教育を通じた教養・共通？

教養・共通教育は多様なもの

# 問題意識-2

## 質保証を支える仕組みは・・・

- 質保証を実現させるために
  - 教育プロセス(カリキュラム、**学習支援**)の改善
  - **教職員**の資質
  - 財政的基盤
  - 入学者の資質(高大接続)
  - 学生のモチベーション
  - 社会的評価
    - 就職問題を含む
  - 大学コミュニティの自律
  - 国際的調和

# 教養・共通教育の多様性

- 教養・共通教育の多様性(歴史的ルーツ)
  - ラテン語・古典教育としての教養教育
    - 中世の大学、修道院モデル
    - 学習基盤の醸成、学習準備、教育可能性
  - 市民性教育としての教養教育
    - 市民革命と共和政
      - 共和政のリーダの育成
      - ジェントルマン、知識人、エリート vs 貴族の子弟教育、軍人教育
    - 「批判」に価値を置く大学の誕生(フンボルト理念)
      - 世俗の権力からの独立 (vs テクノクラート養成?)
    - 民主政を支える市民の育成
  - 高度普通教育としての教養・共通教育
    - 文理教育(Arts and Sciences)としての教養・共通教育
    - 多元社会における学習基盤の醸成、学習準備、教育可能性、ジェネラル・スキル

# 教養・共通教育の多様性

- 教養・共通教育の取組みの多様性
  - ラテン語・古典教育としての教養教育  
(旧制高校モデル?)
  - 市民性教育としての教養教育  
(教養学部モデル?)
  - 高度普通教育としての教養・共通教育
    - 文理学教育 (Arts and Sciences) としての教養・共通教育  
(教養部モデル? 一般教育モデル?)
    - 多元社会における学習基盤の醸成、学習準備、教育可能性、ジェネラル・スキル  
(高大接続? 初年次教育? 社会人教育? 新「教養学部」モデル?)

# 教養課程問題とその後

- 教養課程の歴史的経験
  - 専門教育との接続の悪さ
  - 教養教育の形骸化
  - 「教養 vs 専門」の構図
- 「学部は教養教育」という考え方
  - 大綱化の基本的理念(～米国型)
  - 現実としての専門教育の拡大
  - 「専門学校化」への反省・見直し
  - 教養教育の見直し機運～学士力
- 教養の修得は、専門教育を通じて達成する(～英国型)
  - 「学部で専門教育」と教養重視の矛盾はなくなる
  - 専門教育は、学士力の修得を実現できるか？
  - 理念の問題としてではなく、現実の問題として

# 教養・共通教育の多様性

- 教養・共通教育の現実的多様性
  - 学部を通して実施(教養学部)
  - 学部の初期に集中的に実施(教養課程、全学教育、初年次教育、マルチキャンパス)
  - 専門教育を通じた教養・共通教育の実現(JABEEなど)
  - 大学院レベルの教養・共通教育の要請(大学院共通科目など)

教養・共通教育と専門教育を一律に、別のものとして  
and/or 統合的に、扱うことは非現実的

# 多面的に位置づける・・・

- ・ 教養・共通教育 vs ?
  - 高校との関連
  - 高専との関連
  - 専門学校との関連
  - Diversity : 社会人学生、留学生との関連
  - 職業・就職との連関
  - 成人学習・企業内育成との関連
  - 修士課程との関連
  - 博士課程との関連

# 学習重視の傾向

- 学習成果
  - 「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」
  - 「学習成果」の明確化することを求める国際的流れ
  - 単なる「知識」の獲得ではない
- 学習者主体のインストラクション・デザイン
  - PBL、創造学習(総合)、参加型学習
- 学習支援のあり方は？

# 知識、スキル、コンピテンシー

- TeachingからLearningへ
  - 『知識の伝達』から『知識の創出・自主的学習』へ
- 伝統的知識 vs 知識の運用能力
  - (潜在的)能力 vs 行動
- スキル: 日本語のスキル(技能)は狭いが、、、
  - general skills, common skills, transferable skills, , ,
- コンピテンスとコンピテンシー
  - 英米で異なる表現
  - さまざまな領域で、さまざまな意味に用いられる、、、
  - 「優れた達成能力」
  - 「実現できる能力」(行動特性)

# 米国の事例

- UC Berkeley
  - Student Center
    - Student Learning Center (SLC)
- Univ. of Washington
  - Mary Gates Hall
    - (Learning) Commons
    - Gateway Center
    - Career Center

# Academic Support

- ・ **トレンド**
  - 多様な学習ニーズ(学生の多様性、ジェネラル・スキル)
  - 多様な**学習様式**
    - ・ コンピテンシー重視
    - ・ PBL、ワークショップ、コミュニティ・ベース・リサーチ、サービス・ラーニング、、
  - 「学習空間としての大学」
    - ・ (Learning) Commonsなど、大学の**空間設計**思想にも変化
  - 組織的取組み ↓
- ・ Academic Support service for studentsの**変質と重視**
  - 専門の組織の発展(多種多様だが)
  - カウンセラー、コーディネーター(+TA)が支える
  - Department、School以外の科目提供
    - ・ 対象の多様性を前提とすれば、合理的

# 誰が教養・共通教育を担うのか？

## 設置基準と学習支援

- ・ 設置基準の理念
  - 教員が科目を担当、学部を単位とした審査
    - ・ 学部の科目提供権・履修認定権
  - 学部以外の組織の科目提供の制限
    - ・ 教員以外の科目提供が実質不可能
- ・ 教育者の変容
  - TAの導入、さらにはコーディネータ、カウンセラー？
  - 教養・共通教育は教員が担うことが正しいのか？
    - ・ 大学として守るべきか？ 既得権擁護か？
  - 多様な学習者、多様な学習様式を支える学習支援はどうあるべきか？